



とよおか

農香だより

No.61
2025.

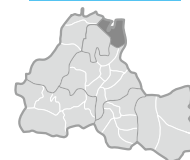
8



「2025たんとウチューリップまつり」会場（但東町畑山）

- 頑張ってます！農地利用最適化推進活動 2P
- きばっとんなる人らぁ 3P
- 伝統農産物、特産農産物の紹介 4P
- 地域計画の上手な活用を！ 5P
- 農業委員・農地利用最適化推進委員募集の予告 6P

港地区 (豊岡地域)



港地区は田山川河口部に位置し、その田山川を挟み東西合わせて4地区で水稻栽培を中心に農業が営まれています。家庭菜園が中心の集落、全域が湿地で維持管理されている集落など、さまざまな形で農地が維持されています。

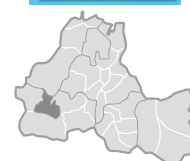
い担い手農家が規模拡大しやすく、持続可能な農業ができるよう、再基盤整備など、施策の早急な実施が期待されるところです。

今春、農業スクールの卒業生が、野菜・ブドウ栽培に就農しました。来年も一人が就農予定で、地域の農業を盛り上げてくれます。

農地利用最適化推進委員として、港小学校5年生による「田植え・稲刈り農業体験」、港認定こども園での「サツマイモ苗植え」「バケツを使ったお米作り体験」「豊岡うまいもんかるた」など食育活動に参加する機会が増えました。その中で「子どもたちが農業に親しみをもち、将来の選択肢の一つとして考えてもらえたら」と期待しています。

(推進委員 嶋 理宏)

清滝地区 (日高地域)



清滝地区は、標高差が大きく農地集約が難しいですが、近隣には道の駅、スキー場、キャンプ場などの観光資源が多数あります。

各組合、企業、耕作者は、観光と農業を融合させ、地域の魅力を高めるさまざまな取組みに、失敗を恐れることなく挑戦しています。

例としては、キャベツ出荷時期に合わせて、キャベツ丸かじり大会を実施し、地元農産物を通じて地域コミュニティの交流と活性化を図っています。その中で、結婚を機に都会から移住した若い女性に参加し、堂々の優勝を果たしました。彼女の奮闘と笑顔は、参加者全員を魅了し、大きな拍手を浴びました。

(推進委員 辻野 吉昭)

100名を超えています。しかしながら遊休農地は増える一方です。現在、農業未経験で会社などを退職した人への声掛けに力を入れていきます。農業の魅力を体験することで、「食べ物を作る喜び」と「収入につながる可能性」を知ってもらい、余暇活動や収入補完の形で農業を楽しんでもらうことを薦めています。退職者が培ったスキルや人脈は、想像のつかないパワーを持っているように感じます。

多くの方から知恵をお借りし、遊休農地解消に向け、試行錯誤していきたいと思います。



高尾農業委員



嶋推進委員



港認定こども園サツマイモ苗植え



原農業委員



辻野推進委員

また、地元の子どもたちに、イチゴ狩りなどの収穫体験を通じて、農業の楽しさを感じてもらい、生育していく仕組みや栽培環境の説明も行い、食べ物への関心を高めてもらえるよう努力しています。

道の駅「神鍋高原」への出荷者は



清滝小学校イチゴ狩り体験

「『豊岡ぶどう』に夢を乗せて」

廣田 大さん(法花寺)

豊岡市内では、令和6年度豊岡市農業スクールの卒業生5名のうち3名がブドウ農家として頑張っています。廣田大さんはそのうちの一人です。ブドウ農家になって一旗揚げの大志を抱いていた廣田さんは、大学病院の看護師長を辞して神戸市から豊岡市に移住してきました。

これまで豊岡市との繋がりがなかった廣田さんは、住む家もブドウ栽培する場所も一から探さなければなりません。農地バンクやJAなどを利用するほか、農業委員会、たじま農協葡萄部、若手農業者など多くの方々から協力を得ながら探し続けること2年間。そして、この4月、豊岡市内に農地付きの古民家と既存ブドウ園を手に入れて独立しました。

現在は、新規ブドウ園を造成しながら、譲り受けたブドウ園と野菜畑の手入れなど、揚々と一歩を踏み出したところです。

今後も、多くの方々に支えられながら、強い信念と観察力を活かして廣田さんらしい「ブドウ園」をつくりあげてほしいと思います。

将来的には、「豊岡ぶどう」を牽引する担い手の一人として様々な場面に登場するように期待しているところです。

(推進委員 吉岡 正人)



自ら経営するブドウ園と廣田 大さん

「安全・安心の農作物をお届け」

安岡 由紀夫さん(日高町)

安岡由紀夫(62歳)さんは、妻、長男、次男の4人家族です。但馬日高農協に10年余り勤務した後、父親の後を継ぎ就農されました。当初は母親の協力を得ながら始められました。

水稲70アールのほかに、1ヘクタールの畑に四季を通して多種多様な野菜を栽培され、近くの直売所に出荷されています。

農業を始めたころは春・秋のキャベツが主な作物でしたが、5年前に勧められたスイカ栽培では、10アールの栽培面積を今年から15アールに増やして栽培する計画です。

春から夏にかけては長トウガラシ、サトイモ、ナスを、秋から冬にかけては主にダイコンなどを栽培し、出荷範囲は、道の駅「神鍋高原」や「たじまんま」以外にも広げられるなど、何よりも消費者の笑顔を楽しみに栽培・販売されています。特にダイコンは、漬物等に加工する希望者にも直接分けておられます。

安全・安心を第一に挙げ、「米ぬか」や「発酵鶏糞」に加え、有機栽培も手掛ける傍ら、自己所有農地を荒らさないことを心掛け、遊休農地の借上げや周辺の草刈りをするなど、遊休地の解消を目指しています。とはいえ、耕作放棄は増加の一途をたどり、シカやイノシシによる獣害は作物の収量にまで悪影響を及ぼしており、「一人の力では手の施しようがない」と、農業の将来を懸念されています。

60歳代になったことを契機に、徐々に長男に農業を託したいとの思いがあるとのことでした。

(農業委員 原 清美)



15アールに拡大したスイカ畑と田起こしする安岡 由紀夫さん

原木シイタケ

シイタケを栽培している豊岡市赤石在住の阪井裕さんは、若い頃は、原木となる木（1・1m）を秋から冬にかけて、5千から6千本を伐採し、ドリルでの穴開けから菌の植付け作業を一人でされていたそうです。

その菌を植え付けた「ホダ木」を置く4カ所のホダ場で、シイタケを栽培し、収穫されていました。現在の「JAたじま」の前身、豊岡市農協のシイタケ部に入部され、生シイタケや乾燥シイタケを出荷されてきました。入部された頃は部員数が120名で、その中で一番若かったそうですが、現在は一番の年長者です。

原木シイタケ栽培の問題点は、自然相手のため、シイタケの発生が気候により左右され、一度に大量に発生した場合、収穫作業が重労働になることです。また、シイタケの販売単価が不安定でそれだけでは生活が成り立ちにくいので、水稲の作付けに移りつつある点です。

ちなみに、現在のシイタケ栽培は、部会の方向として「菌床シイタケ（おがくずや米ぬかなどを混

ぜて固めた菌床に菌を植え付けて栽培）」が主流になっています。

阪井さん自身も高齢となり、体力も衰え、最近の原木不足のためホダ木は千本ほどに減少し、ホダ場も1カ所にするなど規模縮小せざるを得ず、シイタケ栽培の存続が難しくなったと話されます。

現在、阪井さんの生しいたけはJAたじまのたじままで販売されています。原木シイタケの量としては少ないですが、菌床シイタケより香り高く、おいしいと好評です。ぜひ、ご賞味あれ。

（推進委員 西 登巳夫）



ホダ場と原木シイタケ

赤花そば

但東町赤花区で400年以上前から栽培され、小粒だが風味豊かで粘りのある実で打たれた十割ソバが「赤花そば」です。この地では、白いソバの花にわずかに赤い花が混ざっていたため、地名の由来になったのかもしれませんが。

現在は但東地域内の約20ヘクタールの水田で、各区の生産組合などが無農薬で栽培しています。

赤花そばには栽培からソバ打ちまで徹底したこだわりがあります。在来種（「実」）の収穫量は一般のもの比べて半分ほどですが、純粹な種を守るため、他の品種と自然交配しないようミツバチの行動範囲の3キロメートル以内に他品種を栽培しないことにしています。

収穫されたソバの実の乾燥は、乾燥調製施設で行われます。かつてブルーシート上に実を広げた天日干しは、風雨のたびに大量の実を取り込む作業が大変で、その解消に



赤花そば

を上げた天日干しは、風雨のたびに大量の実を取り込む作業が大変で、その解消に

併せ、赤花そばを特産として振興するため、旧但東町時代に当該施設の整備に至りました。計量から袋詰めまで行うソバのプラントです。



ベルトコンベア

この施設で特に重要なのが、ガラスハウスに設置されたベルトコンベアです。実をコンベアの上で循環させ、太陽光で3日

ほどかけて水分を抜くことで赤花そば本来の風味がしっかりと残ります。

製粉は石臼で、実に熱が加わらないようゆっくり実と実をこすり合わせながら粉に仕上げます。

こうして製粉したそば粉に熱湯を加え、粘りの出た練り玉をつなぎにして十割ソバを打ちます。これは赤花の在来種だからこそできるやり方です。

区内の「そばの郷」では、だしをつけず、ソバそのものの味を楽しむ水ソバが味わえ、これも十割ソバならではの楽しみ方です。

（農業委員 早水 博子）

地域計画の上手な活用を!

～継続的に話し合いをしましょう!～

令和5年度から策定することが義務付けられた「地域計画」について、各集落の代表及び農業委員・農地利用最適化推進委員の協力のもと、令和6年度末段階で農会のある265集落のうち231集落において策定することができました。

一部地域では、現在未策定ですが、策定に向けて推進を続けています。

この「地域計画」は、策定して終わりではなく、地域農業の実態に合わせて随時見直しを行っていくことが重要です。

そこで「年一回程度は、集落内で計画の内容について、耕作者の変更がないか等の話し合いを持つ」ことが必要です。

さらに、計画範囲内の農地を転用する場合や農振農用地区域から除外する場合は、必ず変更が必要です。ので、注意してください。

【策定地域集計表】

(単位：ha)

区域内の面積	田の面積	畑の面積	現担い手※1面積	現集積率	目標担い手面積	目標集積率
3,321.8	2,535.2	740.6	1,349.6	40.6%	1,415.3	42.6%

※1 担い手・・・認定農業者・認定新規就農者

【令和6年度末までに策定できた地域】



【豊岡市HP】

地域計画（旧「人・農地プラン」）の結果 | 豊岡市公式ウェブサイト



地域計画HP



「農業委員」・「農地利用最適化推進委員」募集の予告

今期活動いただいている委員の任期が、**2026年4月20日に満了**します。

これに伴い、次期委員の募集を予定しており、事前にお知らせします。

- ・募集予定時期 令和7年10月～11月頃

詳細が決まりましたら、市ホームページなどでお知らせします。

各委員には、市内の農地を守り、活かすための活動をしていただきます。

●農業委員

農業委員会総会における市内農地の賃借・売買の許可、農地転用の許可、農地所有者や耕作者の意向把握などを行います。

●農地利用最適化推進委員

担当地区での農地集積や遊休農地の発生防止・解消などの活動を行います。

農業者年金の6つのポイント

ポイント1 農業者なら広く加入できる

ポイント2 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い

ポイント3 保険料は、月額2万円(35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円)から6万7千円の間で自由に決められる

ポイント4 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金がある

ポイント5 税制面で優遇措置がある

ポイント6 一定の要件を満たす農業者には保険料の国庫補助がある

あなたの老後生活への備えは十分ですか？

詳しくは…

検索

<https://www.nounen.go.jp>



農業者年金の内容やご相談については、
最寄りの農業委員会かJAまたは農業者年金基金に
お問い合わせください。

独立行政法人 農業者年金基金

●専門相談員

TEL: 03-5919-0371

●企画調整室

TEL: 03-5919-0332

農地利用最適化推進委員・農業委員の担当地区一覧

(任期：2026年4月20日まで)

地域名	担当地区名	農地利用最適化推進委員		農業委員	
		氏名	住所	氏名	住所
豊岡地域	八条・豊岡地区	上倉 貞実	佐 野	西沢 泰裕	八 社 宮
	中 筋 地 区	池 畑 一 己	加 陽		
	三 江 地 区	河 本 嘉 一	六 地 蔵	霜 澤 良 雄	庄 境
	田 鶴 野 地 区	西 登 己 夫	船 町	村 田 憲 夫	野 上
	五 莊 地 区	鞍 留 眞 司	新 堂	石 原 章 二	内 町
	奈 佐 地 区	谷 口 正 徳	目 坂		
	新 田 地 区	松 岡 正 人	河 谷	田 中 竹 治	今 森
	港 地 区	嶋 理 宏	気 比	高 尾 利 美	気 比
	神 美 地 区	吉 岡 正 人	三 宅	平 峰 英 子	三 宅
城崎地域	全 地 区	北 村 幸 弘	城 崎 町 飯 谷	和 田 茂 孔	城 崎 町 飯 谷
竹野地域	竹 野 南 地 区	橋 本 忠 明	竹 野 町 東 大 谷	瀧 下 康 徳	竹 野 町 小 城
	中 竹 野・竹 野 地 区	山 根 秀 次	竹 野 町 羽 入		
日高地域	国 府 地 区	橋 本 義 明	日 高 町 府 中 新	尾 藤 光	日 高 町 府 市 場
	八 代 地 区	平 野 薫	日 高 町 中		
	日 高 地 区	足 立 政 隆	日 高 町 祢 布	宮 岡 正 則	日 高 町 浅 倉
	三 方 地 区	中 嶋 貴 太 郎	日 高 町 羽 尻	鳥 尾 勝	日 高 町 観 音 寺
	清 滝 地 区	辻 野 吉 昭	日 高 町 名 色	原 清 美	日 高 町 万 劫
	西 気 地 区	和 藤 達 也	日 高 町 栗 栖 野		
出石地域	弘 道・福 住・寺 坂 地 区	川 見 正 康	出 石 町 上 野	井 谷 勝 彦	出 石 町 桐 野
	菅 谷・室 見 台 地 区	杉 本 武 己	出 石 町 細 見		
	小 坂 地 区	米 本 博 文	出 石 町 長 砂	川 崎 重 雄	出 石 町 三 木
	小 野 地 区	中 務 喜 紹	出 石 町 口 小 野	仲 川 弘 之	出 石 町 上 村
但東地域	資 母 地 区	松 本 雅 浩	但 東 町 口 藤	早 水 博 子	但 東 町 中 山
	合 橋 地 区	千 原 武 敏	但 東 町 西 谷	大 谷 均	但 東 町 畑
	高 橋 地 区	栗 垣 一 夫	但 東 町 大 河 内	桑 田 均	但 東 町 平 田

【農業委員会会長：村田憲夫、会長職務代理者：高尾 利美、井谷 勝彦】

問合せ先

豊岡市農業委員会事務局（市役所本庁舎2階・窓口7番）

電話：0796（21）9021 F A X：0796（24）8114

E-mail：nougyouiinkai@city.toyooka.lg.jp

表紙について 「たんとうチューリップまつり」

今や但馬に春を告げる一大イベントとなった、たんとうチューリップまつりは、平成4年、球根生産者が各々で栽培していた畑を1か所に集め、花を摘み取るまでの間、地元の方に色鮮やかなチューリップを楽しんでもらおうとささやかに始まりました。

その後、平成6年の「但馬の祭典」の一環で、ジャンボ花壇に赤と黄のチューリップで日本列島を描いたことをきっかけに、毎年、その時々世相やトレンドを図柄(フラワーアート)に反映させています。

今年のフラワーアートは、飼い主とともに世界的に有名になった愛犬でした。

フラワーアートとして使う球根の種類や色が多様になるにつれ、それを目当てに訪れる観光客が増加し、まつりの規模は徐々に大きくなり、今日に至っています。

生産部分の球根は機械で植え付けますが、フラワーアート部分は、絵柄や植え付ける球根の色彩が複雑なため、図面引きを含めすべて手作業で行っていて、今年で32回目を数えます。

チューリップまつりが終わる頃には、早速、来年のフラワーアートを楽しみにされる声が聞こえていました。

(農業委員 早水 博子)



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは

農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

私が住まう神鍋高原は、「UFO・神鍋神社」のキーワードで、この春からいよいよ全国区となった。北は北海道、南は沖縄から多くの来訪者が絶えない。経済効果も右肩上がり…。恐るべき「SNS」である。

それはさておき、昨年からの「令和の米騒動」は「コメ政策の根本にまで波及し、未だに迷走」しているが、今年は生産者米価が高くなる由、生産者には嬉しい秋になりそう。この「米騒動」を機に遊休農地が水田に蘇る…。そんな時代に戻るなら農地を守る立場からは「米騒動」もありがたい。

今年も出穂期、穂揃え期を経て、収穫の秋を迎える。「黄金色の稲穂が実り、良質の米が穫れ、生産者利益は増加し、消費者への安定供給も確保される…」そんな秋になることを願わずにはいられない。

今号も多くの皆様のご協力により「たより」を発行することができました。誠に「ありがた山の寒がらす」にございます。

(編集委員長 和藤 達也)



農委だより第61号は私たちが担当しました。

後列左から 吉岡委員、高尾委員、早水委員、
桑田委員、西委員
前列左から 瀧下委員、和藤委員、霜澤委員、
原委員



環境に優しいベジタブルインキで
印刷しています。

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。